

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 13 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471300248		
法人名	因島汽船 株式会社		
事業所名	グループホーム 花園 4階		
所在地	広島県尾道市因島土生町1460番地4 (電話) 0845-22-2525		
自己評価作成日	平成26年2月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3471300248-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

個別の機能訓練を行っている。 ゲーム等のレクリエーションを充実させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、因島土生町の中心地、海辺に立地し環境的には南に瀬戸内の島々、北側にはみかん畑が拓け、町中に在りながらも自然豊かで、夏の花火大会では絶好の見物場所として島民の方々からも親しまれている。町内1～2の高さを争うホテル風の建物は、高齢者総合福祉施設として1階にデイサービス、2～3階が有料老人ホーム、4～5階がグループホームとなっている。又、職員の方々は地元出身で勤務年数も長く、利用者との人間関係も極めて親しい間柄にあり、利用者が「生活する主体」でスタッフは「生活のパートナー」と云う理念の下、利用者はお一人おひとりが役割と目標を持って毎日を生き活きと過ごされ、その結果利用者の笑顔と目の輝きを強く感じられた。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームで決めた理念に基づいて、管理者を中心に全職員がその理念に基づいてのサービス提供や生活支援を行なっている。	法人の理念・行動指針に基づいて、職員全員で話し合い決めた事業所理念を居間に掲示し、常に目に触れ確認出来るように成っている。又、会議時や日々の業務に於いて気づいた時、管理者は理念が実践に繋がる様に職員各位に指導されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	やすらぎ会のメンバー7名が来園してくれ、定期的にお茶の会を行っている。またリハビリ体操や歌なども同時に実施して、利用者との交流ができています。	事業所行事の「餅つき」を行っている。近隣の人々や通りがかった人々が集まってきて、一緒に楽しんだりしている。事業所から案内やPRをしなくても色々なボランティアの申し込みがある等、地域とのつながりがしっかりと出来上がり、相互に親密な繋がりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	人材育成の一環として、実習生の研修の場として受け入れを行なっている。例として生活・介護支援サポーター養成研修の体験活動研修生を受け入れた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議での質問で職員の能力アップはどのようにしているか。年間に6回の定例研修を実施している。その内の2回程度は外部からの講師を招いている。(介護労働安定センターの研修制度を利用。)	定期的開催される運営推進会議は、ユニット毎に開催したり、2ユニット合同で開催されている。過去に於いて試行錯誤を重ね趣旨に沿った運営を心掛けてきた結果、現在では多数の家族の参加が見られ活発な意見交換が行われ事業所運営に活かされている。	運営推進会議のメンバーとして、市町の職員または包括支援センターの職員・地域代表の方々の毎回の参加により、多方面からの意見交換や指導を期待すると共に、議事録の様式の統一と参加者の立場の明示が望まれる。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	利用者の介護認定調査時に市の担当職員に利用者の暮らし振りの情報を提供し、ホームで提供しているサービス内容を説明している。	市町担当者とは従来から機会を捉えて信頼関係づくりに努め、現在では相談やお願い、アドバイスを受ける等の協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	施設で行なう年間研修計画で身体拘束の廃止を全職員に周知している。拘束以外の代替案を職員で検討するようにしている。	年1回の職員研修を行って管理者・職員共に「身体拘束をしないケア」について周知徹底を図っている。又、日々のケアに於いて職員間で身体拘束に該当する様な場合は、お互いに意見を述べ合っ、最善の方法を検討し拘束に該当しないケアに取り組んでいる。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	施設で行なう年間研修計画で全職員に周知させている。日々のミーティングや申し送り時にそのような行為が無いことを確認している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	利用者の権利擁護については施設で行なう年間研修計画で全職員に周知させている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居契約時に重要事項にある各項目、利用料、介護サービスの内容、職員の配置等の説明を行なっている。改定等がある場合は運営懇談会を開催し内容の説明と同意を得ている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	外出やドライブの機会をもう少し多くしてほしい。との要望に対しては、自宅やその周辺地へ案内をした。	利用者・家族と職員の信頼関係を大切にしたい。お互いに忌憚のない意見交換が出来るよう配慮し、運営推進会議・家族会・面会時等の機会を捉えて意見や要望の聴取に努めている。特に家族の方々には、面接時に「ライフチャート」を提示して利用者の状況を把握してもらおうと共に、毎月1回スナップ写真を添付した近況報告を送付し、記録にも残されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年間6回はホームの職員全員で職員会議を開催し意見や要望を聞き、また小人数でのミーティングでもその機会を設けており、利用者へのサービス向上になるものは即時実施をおこなう。	2ヶ月に1回、職員会議と研修会が開催され会議時に発言し得なかった事は、研修会の資料にアンケート欄が用意され提案や意見を述べられるようになっている。幹部職員は職場において自由闊達な意見を述べ得る雰囲気作りと共助の精神の涵養に努められ、職員のやる気と明るさが伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	新たなポストを設けると共に試験、評価等による任用制度を導入する。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修は毎年6回定期的実施している。また、介護労働安定センターから講師を招いての研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域にあるグループホームに利用者がお互いに訪問し交流を実施している。また、他事業所間で連絡会を定期的に事例検討や勉強会を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談において本人や家族から要望や不安なことなどを聞いている。入居後のホームで生活上の問題点や要望、不安なことを再度聞いて暮らしやすい人間関係や環境作りをいっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が求めている事を聞き取り理解してホームでどの様な対応をするべきか決定する。 実際の生活振りを観察し問題点などがあれば家族に報告して解決のため相談をして、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護計画を立案するうえで、本人や家族が望んでいるホームでの生活を十分に話し合う。 過去の生活歴や現在の身体的、精神的な状況を把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の希望や思いはそれを実施し、不安があれば取り除き、喜びや楽しみ事は応援して行く。 利用者と職員の関係は運営理念にある、生活のパートナーと位置づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の暮らし振りや体調面、精神面の変化などの情報を家族に報告して一緒に改善策や支援の方法などを話し合うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域で暮らす友人や馴染みの人がホームに尋ねてきている。	アセスメント情報や毎日の会話から利用者の馴染みの人や場所を察知している。 行きつけだった美容院やお店、小学校等の思い出の場所や人に会って話をする等、馴染みの場所や友人・知人との関係が途切れないよう支援している。また、施設利用により周囲の関心が薄れないように配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日のお茶の時間や食事のときは職員も一緒になり多くの会話を持つようにして、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者が退所した後も、家族等からの相談があれば応じるようにしている。この一年間においては事例なし。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしのなかで、本人がしたいことや希望していることの把握に努めている。意思の疎通が困難な方には家族から情報を得るようにしている。	日々の会話や家族との綿密な打ち合わせにより利用者の好みや生活歴を把握し、それらの情報を基に利用者の言動や表情から本人の意向や思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面談で、本人の生活歴や趣味や人間関係、好きなこと嫌いなことなどを本人、家族から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の生活リズムを観察し特記事項などは生活記録簿に記録して、それを基にホームでのより良い生活ができるよう活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員で本人の生活態度を観察し、家族の思いも聞いてサービス担当者会議でアセスメント、カンファレンスを行い介護計画書の作成をしている。	介護計画は4ヶ月に1回、又変化の生じた時点で見直し、担当者会議を開催して医師・家族・利用者の意見を勘案した関係者の総意に基づいた介護計画が作成されている。モニタリングは毎月1回行われ次回の介護計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、生活記録簿、申し送りノートに毎日記録し、職員は全員その情報を確認している。その情報を基に計画書の作成や見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	週間予定、月間の行事などの計画を作成しているが、今日これがしたいとか行きたいとかの希望があれば臨機応変の対応へもある程度はできている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が安心して楽しい生活が送れるように地域のボランティア団体の協力が得られている。お茶の会や音楽会は定期的に行なわれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	歯科医や救急指定病院などの協力病院や、本人のかかりつけ医で十分な医療等が受けられるようになっている。	今まで利用していた、かかりつけ医を引き続き利用し、遠方からの入居者のみ協力医に変更されている。医師の受診は主として職員が対応し、受診状況は看護記録に記入すると共に家族への報告も詳細に為されている。看護師資格を有する管理者は医師や家族と緊密な連携を図り、適切な医療支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置おり、毎日の健康管理をしている。健康面に異変がある時はかかりつけ医に連絡、及び病院での受診の同行をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設で作成している看護添書や健康管理票、身体のアDLが記載してある資料を医師に提示している。入院中も容態の把握のため面会に行き、医師や担当看護師から情報を聞いている対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合における対応、および見取りに関する方針を文章にして本人、家族に説明し同意を得ている。終末期のケアも主治医の協力により実施している。	当事業所では、「看取り」は行わない方針となっていて、入居時に利用者・家族に対し書面に従って説明し納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを作成している。施設内研修で毎年定期的に実地指導を行なっている。また年に1度は消防の隊員からの人工呼吸法や胸部圧迫による心肺蘇生やAEDの使用などの訓練をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	非常災害時の対応マニュアルを作成している。職員に研修を実施している。また避難誘導訓練や消化訓練を消防署との合同訓練を実施している。	スプリンクラーや火災警報器、自動通報装置等のハード面、及び職員の連絡体制も整備し、年2回の避難訓練を実施している。約10メートル先の消防署に「はしご車」が無いので、7名の消防署員で救助訓練を行う等の災害対策が講じられている。水害対策としては事業所が町内1～2位の高層住宅なので地域の避難場所となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの保護マニュアルに基づいて施設内の研修で定期的実施している。利用者の気持ちを大切に考えてのケアを心がけている。責任のある取扱いと管理をしている。	法人で作成された「人格の尊重とプライバシーの保護」に関するマニュアルを基に社内研修を定期的開催している。基本的な問題と合わせて最近の事例やニュース等も確認し、利用者の尊厳やプライバシーを損なわないよう徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の様子を見ながら、本人の希望を聞いたり相談しながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者、個々の生活習慣に合わせて支援を行なっている。ホーム内で着る服の相談や、髪の毛のカットなどは予約により美容師に来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が同じテーブルで一緒に目を配り、気を配りながら食事をしている。食器の後片付けなども一緒にしている。	法人全体の料理を作っている調理場から副食のみ配食され、ご飯とみそ汁はユニット毎に準備し利用者と職員で盛り付け等が行われている。給食会議やアンケートに従ってメニューが決まり、バイキングやそうめん流し等々、外食を含め多彩な食事が提供され利用者にとって楽しみの1つとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作る献立にて栄養のバランスをとり，減塩食なども提供している。水分摂取量や食事量も毎食チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きが自分で出来る方は声かけして見守り。出来ない方は職員が口腔ケアを行う。嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	身体機能に応じて介助を実施している。トイレでの排泄を大切にしながら，パットやパンツ類も検討している。	トイレでの排泄を基本とし，各利用者の排泄パターンに従って声掛けやトイレ誘導を行い排泄の失敗やおむつの使用を減らす取り組みが為されている。現在、夜間30回位トイレに行かれる頻尿の利用者が居られ医師と連携し最善の方策を模索されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操と水分補給を行って便秘対策に取り組んでいる。水分補給の重要性について職員間で話し合っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴する日は一応決めているが，指定日に入浴しない利用者には別の日に入浴してもらっている。入浴時に服を脱ぐことを嫌がる利用者には言葉かけの工夫。チームプレイにより，その人に合わせた入浴支援を行っている。	原則的には週2回、午前9時過ぎから15時ぐらいの間に個浴となっている。希望により入浴は何時でも可能で、家族の方が親孝行の為に、毎月遠方より来所され共に入浴される利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	日中の身体的活動を促し、生活 リズムを整えて夜間熟睡が出来 るよう配慮。体調や希望を考慮 しゆっくりと休息が出来るよう にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の効能、用法などは薬局から の薬手帳に記載があるので十分 に確認している。症状の変化は 毎日の健康管理において確認を している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	得意な分野でその人の力を発揮 してもらえるように、お願いで きそうな仕事を頼んで感謝の言 葉を伝えるようにしている。地 域の行事参加などは利用者と相 談しながら決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	毎週金曜日を外出日と決めてい る。ドライブや買い物等の外出 支援を実施している。天気の良い 日は屋上で日光浴や体操をして いる。	日々の外出と運動を兼ねて、事 業所に隣接する漁港で開かれる 魚市を覗き、地元漁師の方や魚 市の御客（近隣の住民）と会 話を楽しんだり、屋上で潮風を 感じながら日光浴をし更には、 週1回車でドライブや買い物に 出かけ季節によっては観桜や 紅葉狩りも行事として多彩な 外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	利用者自身で金銭管理をすること が良いとは理解しているが、現 在の利用者のほとんどがそれを 出来ないため、個人のお金は 事務所で保管管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人との電話は、利用者の希望により職員が取り次いでいる。手紙は毎月本人の思いを職員が代筆などして家族に郵送している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の壁に、季節ごとの塗り絵や貼り絵を作り、廊下に花見などに行ったときの写真を貼り、ベランダには季節の花を植えている。	共用空間は全て広々として、車椅子がゆとりを持って使用できる造りとなっている。食堂・居間のある大広間では、ボランティアの方が「舞い」を披露される畳敷きの一角があり、南側は瀬戸内の島々が展望でき夏の花火大会では特等席となり、季節毎の移ろいが楽しめる。廊下には貼り絵や利用者の行事のスナップ写真等が展示され利用者の元気な姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたい時は自室でくつろいでいただき、気の合った利用者同士で話したいときは食堂で出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在宅で生活していた時の写真やその他家庭にあった日用品が居室に持ち込まれている。	ベッドとクローゼットは備え付けとなっている。その他の物は、利用者・家族と相談の上で、使い慣れた物や馴染みの品を持ち込み日々の生活に支障をきたさないよう配慮されている。又、当事業所では喫煙（職員同伴が条件で）・飲酒も制限されていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室の入り口には案内板を設置、自分の部屋には表札を掛けて間違いがないようにしている。また、廊下や部屋の床は段差がない。動線も広く直線で動き易い作りになっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 花園

作成日 平成26年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が言えない時がある。	聞かれた時に即座に言えるようにする。	毎朝の申し送りやミーティング時に全員で唱和を行う。	4ヶ月以内
2	40	食事を残す利用者がある。	食事をすることを楽しみにして、なるべく完食してもらう。	給食会議を月1回定期的に実施して、利用者の要望を入れて献立等の工夫をしていく。	3ヶ月以内
3	57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす時間が少ない。	1日に一回でも、一緒にゆったりと過ごす時間を作り、笑顔が増えるようにする。	10時、15時頃の時間帯にお茶やおやつを食べながらその時間を作っていく。	3ヶ月以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。